

「手打小学校の手踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立手打小学校

2 学年・人数

子岳地区の全児童生徒（3人）

手打小学校3・4年生（9人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

【子岳地区の全児童生徒】

平成29年9～10月 子岳地区コミュニティセンター

【手打小学校3・4年生】

平成29年9月 手打小学校体育館

〔平成29年9月12日（火） 伝承者による指導〕

(2) 発表の日時・場所

【子岳地区の全児童生徒】

平成29年10月15日（日） 蛭子神社祭りでの奉納（蛭子神社）

【手打小学校3・4年生】

平成29年9月23日（土） 手打小・海陽中・校区合同秋季大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

手踊り（ておどり）

(2) 由来

子岳地区の手踊りの由来ははっきりしないが、江戸時代から踊っていたと思われる。
（下甕村郷土誌より）

(3) 構成等

踊り4人，太鼓1人，拍子木1人で構成される。ハンテンまたはハッピー，鉢巻，タスキ，博多帯，手甲足絆，足袋ワラジ，刀，扇子を身に着ける。口紅とおしろいで化粧する。

踊りの構成は，①出羽（太鼓と拍子木で踊る。），②中踊（刀を使って踊る。），③入羽（一人残って太鼓と拍子木でハ，ハ，ハ，ソラオイオイで終わる。）の順である。

5 保存会や地域との連携の具体

子岳地区の児童生徒には，手踊り保存会が中心となって，伝承活動を行っている。

手打小学校3・4年生には，伝承者が講師として来校し，毎年1～2時間程度指導していただいている。その後は，体育やふるさと・コミュニケーション科の授業で練習を行っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校が伝承活動に協力できるように，また，連携しながら伝承していけるように，毎年地区との合同運動会で披露するようにしている。さらに，伝承者による指導時間が限られているので，子岳地区の児童がリーダーとなって，他の3・4年生に教えるようにしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【小・中・校区合同秋季大運動会での発表】



【伝承者による指導】



【蛭子神社祭りでの奉納】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【3年生児童】

手踊りは、右や左を向くところが難しかったです。子岳地区に伝わる踊りなので、しっかり覚えて踊りたいです。そして、運動会に向けて、一生懸命練習したいです。声を出すところがとても大事だと言われたので、はっきりとした声を出したいと思います。それと、右と左を考えて踊るのが難しかったです。でも、みんなできれいにそろえるとかっこいいと思いました。だから、何度も練習して、かっこよく決められるようにしたいです。

【4年生児童】

太鼓のリズムに合わせて声を出しながらとても楽しく踊れました。昔の人たちもこんなに楽しい踊りを踊っていたんだなあと思いました。踊れる人が少なくなってきたそうなので、しっかり覚えて、たくさんの人に覚えてほしいと思います。

【教職員】

伝承者の中野さんが一緒に踊ってくださったので、児童もしっかり覚えることができました。これを機会に地域の伝統をしっかりと未来につなげようとする心が育ってほしいです。

【保護者】

伝統芸能を運動会で披露することで、地域を愛する心が育ってほしいと思いました。

【保存会】

毎年、蛭子神社祭り奉納することができるのは、児童の皆さんがしっかりと伝統をつないでくれるおかげだと思います。真剣に練習に取り組む姿を見ていると、心が熱くなります。これからもずっとこの子岳地区の伝統芸能を守ってほしいです。